

# —やんば— STOP! THEハッ場ダムニュース



IN埼玉

No. 37 2013. 2.18

●ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会・代表 藤永知子●

## 「利根川・江戸川河川整備計画(原案)」に対して意見を述べましょう!

国土交通省関東地方整備局は1月29日に「利根川・江戸川河川整備計画(原案)」を公表し、続いて2月1日に原案に対する意見募集と公聴会の開催を発表しました。これはハッ場ダム建設を強引に推し進めるために、「利根川・江戸川有識者会議」の議論を一方向的に打ち切って発表したものです。

利根川水系河川整備計画は、利根川において今後30年間に実施する河川整備の内容を定めるものですから、流域住民の生命と財産を洪水の氾濫から真に守ることができ、且つ、利根川水系の環境にも十分に配慮したものが策定されなければなりません。

そのように重要な役割を果たすべき河川整備計画が、ハッ場ダム建設のために拙速に策定されるようなことはあってはなりません。

このように理不尽な関東地方整備局に対して私たちの抗議の意見をぶつけることが必要です。パブコメでは是非、皆様の意見を述べてください。

原案と意見募集、公聴会についての資料は関東地方整備局のホームページからご入手ください。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000012.html>

### 意見募集中 (パブリックコメント)

意見募集期間：2月1日(金)～3月2日(土) 18:00 必着 (郵送は当日消印有効)

提出先：関東地方整備局河川部河川計画課

「利根川・江戸川河川整備計画(原案)」意見募集 事務局

郵送先：〒330-9724

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

FAX：048-600-1436

メール：tone-plan3@ktr.mlit.go



# ハッ場ダムをめぐる現状と今後

嶋津暉之

## 1. 国交省の発表（ハッ場ダム事業の来年度予算と河川整備計画原案）

昨年12月の総選挙で自公政権が復活し、ハッ場ダムをめぐる状況も急展開してきました。国交省は1月29日にハッ場ダム事業の来年度予算とともに、ハッ場ダム建設を明記した利根川・江戸川河川整備計画の原案を公表し、続いて2月1日に原案に関するパブリックコメントの募集と公聴会の開催を発表しました。

### ハッ場ダムの来年度予算

ハッ場ダム事業の来年度予算は97億5200万円（今年度より約20億円の減額）で、その中に本体関連工事費18億円が盛り込まれましたが、本体工事費そのものは計上されませんでした。本体関連工事費は資材置き場や工事用道路の建設費、調査費などで、今年度の予算案にも同額が同じ内容で入っていたのですが、民主党政権下では今年度の当初予算には計上されませんでした。

### 利根川・江戸川河川整備計画原案と今後のスケジュール

昨年9月から再開された利根川・江戸川有識者会議では、河川整備計画の治水目標流量の国交省案に対して根本的な疑問が提起され、議論の真っ只中にあるにもかかわらず、議論を一方向的に打ち切って、整備計画原案が発表されました。さらに、支川も含めた利根川水系全体の河川整備計画を策定することが必要であるにもかかわらず、ハッ場ダム事業推進のために本川だけの河川整備計画でお茶を濁してしまうという無茶苦茶なやり方が行われています。

2月1日発表の「今後の予定」は次のようになっています。

- ① 河川整備計画原案に対する意見聴取
  - 利根川・江戸川有識者会議の学識経験者の意見聴取
  - パブリックコメント 意見募集期間 2月1日～ 3月2日
  - 公聴会（4会場）2月24日～ 26日
- ② 河川整備計画案を作成して関係都県知事の意見聴取（関係市区町村長の意見は知事が聴取）
- ③ 河川整備計画の策定

国交省はこのようなスケジュールで来年度の早い時期に河川整備計画を策定しようと考えているようです。上述のハッ場ダム本体関連工事の開始時期は明らかにされていませんが、この河川整備計画が策定された後になる可能性があります。

## 2. ハッ場ダム事業の先行き

このように、ハッ場ダムをめぐる状況は自公政権に戻って一段と前のめりになっています。しかし、仮に本体工事に着手したとしても、その先行きはどうか分かりません。昨年2月の国会において、当時の前田武志国交大臣は「本体に着工してから、7年で完成すると想定されている」と答弁していますので、仮に2014年度中に本体工事に着工してもダム完成は2021年度になります。さらに、仮にダム本体が完成したとしても、地質が脆弱なハッ場ダム予定地では、試験湛水中に深刻な地すべりが発生してその対策工事に追われ、いつ完成するか分からないダムになる可能性が十分にあります。また、事業費の大幅増額が避けられませんので、ハッ場ダムの先行きは混沌とした様相を呈すると予想されます。

(あしたの会会報17号より転載)

利根川シンポジウム ウナギが問う！

2013, 1, 19 全水道会館にて

### 「生物多様性から考える利根川水系河川整備計画」

辻 貞子

関東地方を流れる利根川は日本最大の流域面積をもっています。この利根川の河川行政をウナギの視点—市民の視点から考えようと、このシンポジウムが開かれました。

ラムサールネットワーク日本代表の浅野正富事務局長は、利根川流域の多様な生態を紹介し、「日本の代表的河川はラムサール湿地登録されていない。生物多様性のある利根川の登録をすすめることで、ラムサール条約の理念であるすべての湿地の賢明な活用をする姿勢を国はしめすべきだ」と述べました。

霞ヶ浦漁業研究会の浜田篤信さんは利根川流域のダム建設が1967年以降のウナギ漁獲量の減少と相関関係があり、ダム一つできるごとに漁獲量が14.8%も減ったと指摘しました。ウナギの漁獲量は利根川水系では最盛期には1000t(全国の30%)ありましたが、2010年にはそのわずか2%以下の16tに減り、かつて41500tと全国一を誇ったヤマトシジミ(全国の74%)も2010年にはわずか5t、ほぼ壊滅状態です。ウナギは5~6歳で成熟し、産卵のために海に出て小笠原海溝沿いに南下してマリアナ海嶺南端付近で産卵します。利根川は成熟親魚が産卵回遊に出る出発点にあたるため、利根川水系のウナギの激減はウナギの未来に大きな影響を与える可能性があるといえます。

アサザ基金の飯島博さんは、かつてはウナギで家が建った、網が破れた、川がウナギでまっくらだった、子どもたちも放課後川に網をかけ、翌朝とりにいって小遣いのかせいだと地域の古老

から聞いたそうです。霞ヶ浦に流れ込むのは大河川ではなく中小河川で、小さな流れが毛細血管のように張り巡らされ、支流もあわせれば数百に及ぶ流れが流入していて、ウナギの格好の隠れ家や様々な魚類の生息地になっていました。海のすぐそばにある汽水湖（真水と塩水がまじっている）で、大潮とともにウナギやヤマトシジミやセイゴ、マハゼ、スズキなどがあがってくる豊かな漁場でした。

それが急激に悪化したのは1971年に利根川河口堰が建設されてからです。逆水門が作られましたが、それを開けて逆流させる（海水を入れる）と、水門の800m上流にある国営鹿島南部農業用水の塩分濃度が上がり、下流の神栖町、波崎町の農業地帯で塩害が生じるとして1973年に逆水門は完全に締め切られ、霞ヶ浦の水を放水するときだけ水門を開けることになりました。その直後から汽水域に生息するシジミの大量死が続き、1980年にシジミ漁業権消滅補償がされてからは河口堰の稼働日数はさらに増えて、水質の悪化やヘドロがたまるなど霞ヶ浦・北浦の環境問題は目を追うごとに深刻化し、多くの生物が姿を消していきました。

しかし、この30年間で川をとりまく環境は大きく変わりました。節水技術の進歩等もあって、鹿島工業地帯の企業は大量の余剰水を抱え、使い道のない水を大量に買わねばならないため、今では経営に大きな負担となっています。工業用水の取水口は逆水門から二十数キロ上流にあるため、逆水門を開けても海水が混じる心配は全くありません。アサザ基金はこの余剰の工業用水を数メートルしか離れていない地下のパイプでつないで農業用水に転用し、逆水門を柔軟に運用することで、地域経済の活性化、ウナギ、ヤマトシジミなどによる漁業の再生を図るとともに、湖の水循環もよくなって水質浄化も図れると1997年から国に提案しています。しかし、農業用水は農水省、工業用水は経産省の縦割り行政の弊害なのか、いまだに回答がありません。

この提案が有効なことはある偶然の事例で確かめられています。補修工事の際に60日間海水が越水したことがありましたが、その年はサケやハゼが大量にとれ、農業用水にもまったく問題ないことがわかりました。

アサザ基金は、専門家と市民のネットワークで地域を活性化していく市民型公共事業を提案し、進めています。酒造メーカーの参加による水源地の再生や、市民グループによるウナギの蒲焼に必要なしょうゆ作り、谷津田の再生、子どもたちによる耕作放棄地の再生など、市民のネットワークに行政を参加させて一緒につくっていく、生活者の視点からの仕組みづくりに力をいれています。市民型公共事業という提案に心を動かされました。

12月の衆議院選挙後、無力感と絶望感に襲われていましたが、このシンポジウムに参加して、やれること、やらなければならないことを地道に市民でネットワークを作ってやっ払い、やれなくても考えていこう、そうすれば時間はかかっても道はひらけると、勇気づけられました。

## 「ハッ場ダムは今」



吉田久栄

王子の北とびあスカイホールにて「利根川治水の争点」と「ダム予定地の遺跡」についてのシンポジウムが開催されました。

### ■再び「人からコンクリート」の時代に

2012年12月の衆議院選挙により、官僚と一体となりダムを推進してきた自民党が政権に返り咲いたことで、ハッ場ダムの先行きは非常に厳しいものとなりました。シンポジウムに先立つ総会の時に、ハッ場あしたの会の渡辺洋子事務局長が「私たちはハッ場ダムを止めるために頑張ってきましたが、たとえ建設が始まるとしても、今までの市民の活動がなかったら、とっくにハッ場ダムは出来ていたと思うので、諦めず命を大切にする社会の実現を目指して活動してゆこうと思います」と決意を述べられました。

### ■第一部・各方面からの現状分析

嶋津暉之さんからは政権交代後の「ハッ場ダム事業の現状」を、大熊孝新潟大学名誉教授は「利根川の河川整備計画」の有識者会議の酷さを、あしたの会の渡辺洋子事務局長からは「ダム予定地の現状」の厳しさを、勅使河原彰文化財保存全国協議会常任委員からは「ハッ場ダム予定地の遺跡」についてのレクチャーがありました。

国土交通省が無理やりダムを造ろうとしているための歪みが、さまざまな問題を引き起こし将来に禍根を残すことが明白で、ハッ場ダム計画は不正義の塊です。

### ■第二部・ハッ場ダム予定地の遺跡について

堀内秀樹東京大学埋蔵文化財調査室准教授の「ハッ場ダム予定地における天明浅間災害遺跡の歴史的価値」と、椎名慎太郎山梨学院大学名誉教授の「遺跡保存を考える」をお聞きし、ハッ場ダム予定地が貴重な遺跡群の中にあること。豊かで1万年続いた縄文時代。ダムに沈むと水位の変化で遺跡の保存は不可能な事。別の場所に移設することが成功した例はないこと。短期の利益のために貴重な遺跡を壊すと二度と戻らないこと、などなど。

引き続き、川村晃生慶応大名誉教授がコーディネーターとなり渡辺さん、嶋津さん、大熊先生、勅使河原先生、堀内先生、椎名先生によるパネルディスカッションがありました。

河川ムラのごり押しに対し、今後も粘り強く、したたかに活動を続けてゆこう。2050年まで頑張れば、人口も減ってハッ場ダムは出来ない。など、どんな状況になっても頑張ることを確認しあいました。

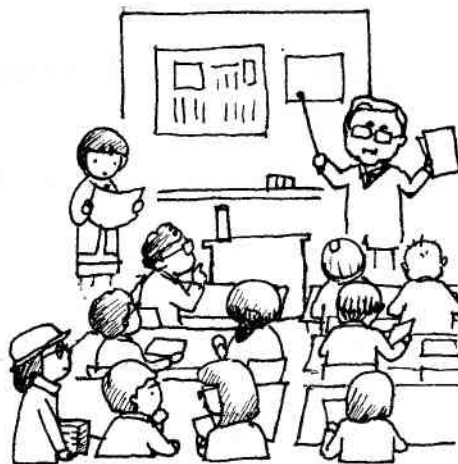
★★★★★★★★★埼玉の会「総会」のお知らせ★★★★★★★★★

ハッ場ダムをめぐる状況は厳しさが一層増しています。この局面を打開するため、是非、ご出席いただき、ご意見をくださるようお願いいたします。

■日時：3月10日（日）13時30分～16時

■場所：埼玉会館 6C会議室（こぶし）

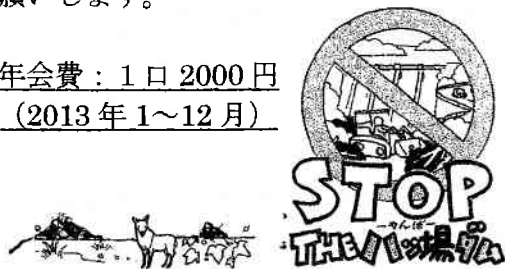
- 議案Ⅰ 2012年度活動報告・会計報告
- Ⅱ 2013年度活動方針（案）・予算（案）
- 裁判報告 弁護士 野本夏生さん
- 報告「ハッ場ダムをめぐる状況について」  
    嶋津暉之さん
- ハッ場ダム予定地の現状のビデオ上映



会費納入のお願い

いつもご支援下さり、ありがとうございます。  
当会の活動は、皆さんの会費とカンパで支えられています。  
下記口座にご支援のほど、よろしくお願ひします。

年会費：1口2000円  
(2013年1～12月)



ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会  
郵便振替：00180-2-334064

**編集後記** “コンクリートから人へ”の маниフェストを掲げた民主党政権が、その構想を実現する能力が無く自ら放棄する中で、自公政権が復活してしまいました。しかも今度は金の亡者であるばかりでなく、強力な日本軍の再建を目指し、憲法を変えて再び戦争が出来る国「普通の国」にしようとしている連中です。この政権の支持率が60%以上、という世論調査結果には唖然とせざるを得ません。正論をいうのは少数派であることが多いのは事実ですが、それを多数派にしていく道があるはずですよ。でも、国民の多くが「脱原発」や「平和」よりも「経済成長」（永続的な経済成長などあり得ないのですが）を望むなら・・・どうしようもない閉塞感に包まれながら、今出来ることをしていく、しかないのでしょうか？(O)

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局；さいたま市浦和区北浦和 5-15-41-221 大高方 Tel&fax；048-831-4891

★ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 <http://yambasaitama.blog38.fc2.com/>

★ハッ場ダム訴訟 <http://yamba.sakura.ne.jp>★ハッ場あしたの会 <http://www.yamba-net.org>